

令和5年10月市議会定例会

市 長 挨 拶

盛 岡 市

令和5年10月市議会定例会の開会に当たりまして、市政運営についての所信の一端を申し述べ、議員各位をはじめ、市民の皆様の御理解と御協力を賜りたいと存じます。

先の市長選挙におきまして、市民の皆様から寄せられました期待に応えるため、盛岡に住む 284,000人 すべての市民の幸せの実現のために全力を尽くしてまいります。盛岡に生まれ、住み続けて良かったと思えるまちを市民の皆様と一緒に創ってまいりますので、議員各位におかれましては特段の御理解とお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

我が国は、人口減少が課題と言われて久しく、更に3年以上に渡るコロナ禍や、長引く物価高騰とエネルギー危機など、先行きの不透明感を払拭できない状況が続いています。

このような状況において、国は、新時代にふさわしい経済社会の創造や、子ども・子育て政策等に重点的に取り組むこととしており、地方においても、人口減少や少子高齢化、デジタル化の遅れなどの社会課題を解決し、魅力を向上させることを通じて、地域活性化を図っていく必要があると認識しております。

長く続いたコロナ禍は本市にも打撃を与えましたが、一方で、地方への移住に対する関心の高まりや人の流れに変化の兆しが見られたほか、DXの推進、テレワークなどの新たな働き方が広がったことなど、人々の意識・行動に変化が生じた側面もあります。この機を捉え、今後策定予定の政府の新たな経済対策等も踏まえて、積極果敢に様々な施策を打ち出すことが、本市に求められており、市民の期待も大きいものと存じております。

私は、今まさに、新しい盛岡、「より優しく、より強い盛岡」を創る時機が到来したと、決意を新たにしているところであります。

「より優しい盛岡」という理念の根底には、未来を創っていく子どもたちを応援したい、困難を抱える子どもたちに寄り添い、手を差し伸べたいという私の強い思いがあります。

子どもたちは、社会の将来を担う宝であり、子育てしやすいまちづくりは、本市が生き残っていくための切り札となるものです。

まずは、本当に子どもたちや子育て世代のためになる効果的な支援を形にすること、具体的には、延長保育や病児保育について、利用者のニーズを改めて把握し、拡充やサポートの取組内容を検討するほか、学校給食を完全実施するとともに、無償化については、国に先行した実施に向けて検討を進めてまいります。

また、A I型ドリル導入による学びの個別最適化を進めるほか、校内教育支援センターを順次整備するなど、不登校や長期入院等により登校できない子どもたちの多様な学びを支援するとともに、「いじめゼロ」に向けた相談窓口を設置するなど、苦しい思いをしている子どもたちに寄り添ってまいります。

人生の先輩世代には、年齢にかかわらず生き生きと活躍いただきたいと考えており、住み慣れた地域で暮らすという希望がかなえられる環境づくりに取り組みます。安心して利用できる移動手段を確保するため、自動運転時代の到来を見据えた実証実験を検討するほか、在宅医療拡充を進めるためのプロジェクトチームを庁内に設置するなど、先輩世代を取り残さないまちづくりを進めてまいります。

このほか、全世代が本市に住み続けたいと思えるような環境整備にも注力したいと考えており、除雪については、課題を徹底的に洗い出し、可能な限り改善するほか、環境負荷の低減や効率的なごみ処理を進めてまいります。

また、アクティブシニアの社会参加や子ども食堂での世代間交流など、多世代が地域で交流する機会を確保し、人と人とのつながりを再生させることによ

り社会的孤立を防ぎ、誰一人取り残さない、「優しい心を持つ盛岡」を創ってまいります。

全国どの自治体でも人口対策に力を入れている昨今、私は、本市には本市の実情に即した独自の人口対策が必要と考えており、その鍵となるのが「強い盛岡」であります。

地元経済を強くする、そのためには私が地元で培ってきた経営感覚を生かし、冷静かつ果敢に将来への投資を行う必要があります。

まず、地元企業の上場支援や、本社機能の移転を含めた企業誘致に取り組むほか、起業家塾やビジネスプランコンテストのブラッシュアップを行うなど、意欲ある若い起業家の支援を行い、活発な起業を促進するとともに、地元企業の売上げや利益アップについても、小規模事業者など事業を営む方々から直接意見を伺いながら、効果のある支援を進めてまいります。

また、事業者のDX推進を支援し、基礎体力の強化や高付加価値化を図るとともに、本市の強みである第三次産業について、さらなる活性化を図り、地元経済に活力を取り戻します。

さらに、雇用を生み出し、域外資金を獲得する力のある製造業や物流業の集積を図るため、積極的な企業誘致やその受け皿となる産業等用地の整備を推進するとともに、食の安全や自然環境を支える農林業の担い手を対象とした育成支援に取り組み、バランスの取れた産業構造の構築を進めます。

これらの産業の担い手を引きつける施策も重要であります。移住支援金の効果を見極めながら引き続き支給するとともに、Uターン就職を条件とする給付型奨学金の創設を検討するなど、地元経済を支える人材確保にも着実な投資を行ってまいります。

また、中心市街地の機能を維持しながら、各地域の拠点性を高め、これらを

相互につなぐ「コンパクト・プラス・ネットワーク」に本市の都市構造を再構築し、未来を見据えた持続可能な都市を目指してまいります。

さらに、ニューヨークタイムズ紙効果で注目を浴びているこの機会を生かし、歩いて楽しめる本市の魅力をさらに磨き上げて発信するとともに、市民の意見を伺いながら、盛岡ブランドをトップ自らアピールするなど、いわゆる外貨の獲得にも取り組んでまいります。

これらの取組の推進に当たっては、これまでの市政運営を目に見える形で変えていく必要があると考えております。

まず、DXの推進により庁内の業務を徹底的に効率化し、その結果、生み出された時間や人的資源を市民に直接対応する業務に振り向け、業務の効率化と質の向上に取り組んでまいります。DXの推進は、新市庁舎のあり方、ひいては将来に向けた本市のまちづくりのあり方にも関わることから、戦略的に取り組んでまいりたいと存じております。

また、市民との対話は、市民の皆さんのニーズを正しく把握するとともに、市政推進のパートナーでもある市民の皆さんに参画いただくためにも欠かせないものであり、私の市政運営の柱でもあります。市民や事業者に対する支援が本当に必要な方に届くよう、また、色々な場面で、市民の皆さんや事業者の皆さんと協力した取組ができるよう、私が市内各地を訪れ、現場の声、そして、個人や小規模事業者の声を丁寧に伺う場を設けます。

さらに、厳しい財政状況の下、果敢に将来への投資を行うためには、新たな財源の確保にも重点を置くこととし、ふるさと納税を積極的に活用した事業実施に鋭意取り組んでまいります。

「より優しく、より強い盛岡」の基本的な指針となる新しい総合計画につきましても、社会が大きな転換点を迎えている中での策定となりますことから、

専門的知見を取り入れて時代の潮流を的確に捉えるとともに、議員各位、市民や市内事業者の皆様から意見を伺いながら、本市に関わる全ての方々の英知を結集して、今後のまちづくりの道筋を明らかにしてまいりたいと考えております。

これからの4年間、未来を見据えた施策を躊躇なく打ち出し、着実にその成果を収めることにより、「より優しく、より強い盛岡」の実現に向け、必ず進化を遂げてまいります。

新しい視点を取り入れ、市民の皆様が将来にわたって幸福を享受できる、選ばれるまちを創り上げていく、そのためには、どれほど困難な状況に陥ろうとも、多大な努力と時間を要することになろうとも、私は決して諦めず、全力を尽くしてまいります。

私は、盛岡を愛しています。

就任から1か月、秋の例大祭、敬老会をはじめ、多くの場で市民の皆様とお会いして、直接お話を伺い、改めて盛岡の歴史や伝統の重みを感じるとともに、今後の市政に対する市民の皆様の期待の大きさを感じたところであります。

盛岡を創ってきていただいた先輩方には、素晴らしい盛岡を創っていただいたと心から感謝しております。

先輩方への感謝の気持ちを忘れることなく、その上で284,000人、一人ひとりの力を合わせ、優しい心を持つ、強い地元経済の盛岡を創っていきたい、その一步を力強く踏み出したところであります。議員各位をはじめ、市民の皆様の一層の御支援と御協力をお願い申し上げます。

なお、提案申し上げます諸議案につきましては、御審議の上、御賛同を賜りますようお願い申し上げます。挨拶といたします。